

2022年度第2回プロジェクト評価委員会 議事抄録

日時：2022年9月27日（火）15:00～17:00

場所：ZoomによるWeb会議

出席者（敬称略）：

委員：井岡、大内、奥村、川端[†]、小杉、齋藤^{††}、清水、徂徠、藤澤、満田、吉田

オブザーバ：常田台長（冒頭のみ）、

事務局：総務課総務係（川島、齋藤）、研究評価支援室（堀）

欠席者：犬塚委員

^{††}委員長、[†]副委員長

【議 題】

1. 委員自己紹介
2. 国立天文台プロジェクト評価とプロジェクト評価委員会について
3. 副委員長の選出について
4. 前回議事抄録の確認
5. 2022年度プロジェクト評価について
6. その他

【配付資料】

- 資料1 国立天文台プロジェクト評価委員会名簿
- 資料2 プロジェクト評価の考え方、プロジェクト評価委員会の役割とプロジェクト評価の進め方
- 資料3 2022年度第1回プロジェクト評価委員会議事抄録
- 資料4 科学研究部国際外部評価案
- 資料5 2022年度プロジェクト評価に対するご意見について
- 参考資料1 国立天文台の組織構成(2022年4月1日時点)
- 参考資料2 国立天文台プロジェクト評価委員会規則
- 参考資料3 国立天文台によるプロジェクト評価の実施状況
- 机上資料1 2021年度プロジェクト評価に対する感想・意見、今後のプロジェクト評価への要望（改善策）(2022年度第1回プロジェクト評価委員会 資料2-5より)
- 机上資料2 2021年度プロジェクト評価の「評価の観点、評価基準」

【議 事】

国立天文台プロジェクト評価委員会（以下、本委員会）の今期（2022年7月1日～2024年9月30日）最初となる審議に先立ち、常田台長より、本委員会の今期委員長として、前期に続き齋藤正雄委員（副台長（財務担当））を指名したい旨、参考資料2に基づき説明があり、承認された。以下、齋藤委員長による司会のもと審議が進められた。

1. 委員自己紹介

資料1に基づき、本委員会の各委員より自己紹介があった。

2. 国立天文台プロジェクト評価とプロジェクト評価委員会について

齋藤委員長より、参考資料1に基づき、国立天文台の組織構成と科学研究部の設置（2019年度）について、参考資料2に基づき、本委員会規則の改正箇所について、参考資料3に基づき、プロジェクト評価の実施状況（2016年度～2021年度）と今年度のプロジェクト評価対象について、説明があった。今年度評価対象は当初2件を予定していたが、科学研究部のみ確定しており、天文シミュレーションプロジェクト（CfCA）は調整中の旨、説明があった。

続いて、齋藤委員長より、資料2に基づき、国立天文台のプロジェクト評価の目的、本委員会の委員構成（台外委員が過半数）、台内ステークホルダとの関係、本委員会・外部評価委員会・外部評価コーディネータの役割、評価報告書、評価の流れについて、説明があった。

●主な意見、質疑応答：

- ・センターと科学研究部は、プロジェクトに準ずる形で評価を実施する。「準ずる」とは？
→ 基本的に評価プロセスに違いはない。センターと科学研究部は、プロジェクトに定義されている設置期限とScientific Goals & Missionsが定められていない点が異なる。

3. 副委員長の選出について

齋藤委員長より、昨年度、評価する側・される側の両方を経験された川端委員を副委員長に指名したい旨、説明があり、承認された。

4. 前回議事抄録の確認

齋藤委員長より、資料3に基づき、2022年6月13日に開催された前回会合の議事抄録¹（前期委員会で確認済み）について、議論の概要説明があった。

続いて、齋藤委員長より、机上資料1に基づき、新たな方針のもと初めて実施された、昨年度プロジェクト評価に対する関係者からの意見・改善点について、紹介があった。また、これを受けて、齋藤委員長より、今年度評価に関して以下の説明・依頼があった。

- ・評価スケジュール：年度内の評価実施、6月末までの評価報告書提出、が望ましい。今年度は委員任期等による縛りはないが、来年度評価への影響を避けるため。（十分なレビューを行えるよう、外部評価コーディネータとプロジェクト、外部評価委員会の間でスケジュール案を提示し、これを守れるように進めたい。）
- ・外部評価委員会とプロジェクトのやりとり：原則、コーディネータ・事務局を介することとし、直接やりとりしない。客観的に全ての情報が事務局を通ることを確保するため。

●主な意見、質疑応答：

- ・レビューする側に、何が求められているかが十分伝わっていることが、スムーズなレビューにつながる。外部評価委員会委員の選考では、レビュー経験の有無も考慮するとよい。また、プロジェクトの目的・概要等が英語で的確に伝わる資料を用意し、評価のねらいを事前にしっかり共有することが大事である。
- ・オンライン・レビューでは、外国人委員の居住エリアで時差が発生する。外国人委員の人

¹ 国立天文台ホームページで公開されている。<https://www.nao.ac.jp/recommend/project-review-committee/>

選では、時差がなるべく発生しないよう、居住エリアにも留意するとよい。

5. 2022年度プロジェクト評価について

齋藤委員長より、資料4に基づき、国立天文台執行部の確認後に科学研究部より提出された、評価に関する4項目（案）、資料5に基づき、同案に対する委員からの意見について、説明があった。なお、齋藤委員長からの依頼により、本議題では、科学研究部の大内委員は利益相反を避けるため事実関係の確認のみとし、審議には参加しないこととした。

審議の結果、(1) 評価項目、(2) 評価の観点、評価基準、は評価しやすいよう1:1で対応を整理し直すこととし、(3) 外部評価委員会委員候補者（計5名、予備5名）、(4) 外部評価コーディネータ（1名）、は原案に沿って進める旨、過半数の委員の賛成を得て承認された。(3)のうち本委員会の台外委員は井岡委員と川端委員に、(4)は本原研究連携主幹に、それぞれ決定した。

●主な意見、質疑応答：

- ・ (2) 「他の類似機関や大学に比べて国立天文台は科学研究部に良い研究環境を提供しているか」について、他機関との比較は必要(適切)か？絶対的な基準はあるのか？
 - 旧・理論研究部のH30年度評価報告書における指摘事項を引き継いだもの。(旧理論研究部の教授はポスドクや学生がいないので、それほど魅力的ではないのではないか。)
- ・ (1) 「高等研究院構想との整合性」に該当する(2)は何か？「高等研究院構想」とは何か？
 - 正式に承認・確立された構想が存在せず、整合性を判定できない。(2)との関係も不明なため、削除する。重要な点なので、欠席された犬塚委員にもご意見を伺う。
(注：高等研究院構想の検討は、国立天文台より旧理論専門委員会へ諮問された(H28-29年度)。回答期限までに最終案が提示されなかった。)
- ・ 科学研究部の設置目的（4項目）、前回理論研究部外部評価における指摘事項、のそれぞれと(2)の対応を明確にするとよい。外から評価に加わる人にもわかりやすくなる。
- ・ 科学研究部年度目標（2022年度）は誰が作ったのか？
 - 科学研究部が担当執行部と相談して作成、提案し、企画会議にかけて承認された。
- ・ (3)(4)の案はどこが出したのか？
 - 科学研究部が提出した原案のまま。
- ・ (3)の一人に奥村委員が含まれたが、利益相反にあたるため、辞退された。
- ・ 評価に要する時間はどの程度か？
 - 昨年度評価では、ヒアリング回数にもよるが、打合せを含めて合計丸二日間程度（平均約16時間）zoom会議を行った。他に、メールでの議論や評価書類を読む時間も必要。

6. その他

齋藤委員長より、本日の議論を受けて、事務局で資料4の修正案を作成して委員へ送付するので、資料の確認および意見があれば連絡するよう依頼があった。また、平成30年度プロジェクト評価報告書（理論研究部）の共有、外部評価委員候補者のうち海外3名に関する説明資料を次回会議で添える旨、連絡があった。

以上